



思い出に残る成人式にしたい

成人式企画委員会・委員長 蝦名 みさきさん(上延沢)

企画委員に選ばれて、できるかなという不安はありましたが、もともと皆の代表になったり、イベントを企画したりするのは好きなほう。今回は何より祖母が喜んでくれました。委員長としても、みんな、昔からまとめ役の人たちばかりなので、私がまとめるまでもありません。同窓会みたいな雰囲気です。

成人式は一生に一回きりなので、思い出に残るものにしたいです。企画委員会では、メンバーから「自分たちが楽しむだけでなく、親にも感謝の気持ちを伝えたい」という意見が出ていました。自分たちの節目でもあります、親にとっても節目となる日だけに、人とのつながりを大切に、周りへの恩返しをしたい、そういう思いで取り組んでいきたいです。

今、相模原で一人暮らしをしています。開成町を離れてみてわかったことがありました。帰りたいという気持ちや人が温かいと感じることです。「開成町に戻ってきたいと思いませんか」と聞かれれば、やっぱり自分の行動範囲内がないので遠いと感じてしまいます。今は半々くらいかな。

「紫陽花」

小田原へ向かう急行列車に
久しく乗らなくなった
いつも窓からの景色を眺めていたのに
ああ、そういえばあの頃のあたしは
何を考えて生きていたんだっけ？

何もない小さな町だけど
いつか大切なホームになっていた

「紫陽花が綺麗だよ。そろそろ帰ってきな。」
ああ、もうそんな時期なんだね
お気に入りのギターとカメラを持って
あの場所へ帰ろう

早く大人になりたいからって
我儘ばっか言ってた
後悔なんて捨てきれない程抱えてる
ああ、もう少し時の流れが
ゆっくりだったらいいのにな

鳥の声川の音聞きたくて
気付いたら何もせずホームに立っていた

酒匂川を眺めて耳を澄ましていた
ああ、この音は忘れたくない
お気に入りの歌を口ずさんでいたら
涙こぼれた

「紫陽花が綺麗だよ。そろそろ帰ってきな。」
電話越しに伝わる少し元気ない声
ああ、待っててねもうすぐ帰るよ
ばあちゃんが作ってくれる手料理楽しみに
あの場所へ帰ろう
あの場所へ「ただいま。」

将来の夢は国語の先生という蝦名さん。夢に向かって大学で勉強中。趣味で音楽もやっているそうです。11月28日(土)に小田原でライブを行い、そこで蝦名さんが作詞作曲した「紫陽花」という歌を披露したそうです。開成町のことを歌ったものだったので、ちょうどライブに来ていた地元の人たちが共感して涙を流してくれたという話をしてくれました。その歌には、蝦名さんの町に対する思いなどが込められています。皆さんにもその歌詞をお届けします。

歌に込めた町に対する思い



ライブで熱唱する蝦名さん

はたちになって抱く まちへの思い



まちづくり情報特派員特集

町制施行60周年の年に20歳を迎えた新成人にインタビュー

これから、町を支える、町をつくっていく世代。これまでどのように町で過ごし、未来に何を描いているのか、成人式企画委員会後の企画委員にまちづくり情報特派員がインタビューをしました。

成人式の始まり

昔から日本では、男子は元服、女子は裳着など大人になったお祝いをする風習がありました。

現在の成人式は、1946年11月、埼玉県蕨町（現在は蕨市）で行われた「青年祭」が発端と言われています。第二次世界大戦の敗戦での虚脱感の中で、未来を担う若者たちを励まし、希望を持たせようと、地元青年団が企画しました。

これが全国へ広がり、影響を受けた国は1948年に施行された国民の祝日に関する法律で1月15日を成人の日に制定しました。その後、1998年の法改正（通称ハッピーマンデー法）により、2000年から成人の日は1月の第2月曜日になりました。

なお、町では、新成人などからの要望により、2011年から成人式を「成人の日」に固定せず、その前の休日などに開催しています。

開成町の成人式

例年、式典とアトラクションの2部構成で行っています。開催にあたっては、その年の新成人が中心となつて、企画・運営に協力する企画委員会が組織されます。そのメンバーは、主に中学校からの推薦により選ばれています。

成人式企画委員に選ばれたメンバーは、一生に一度のこの日を心に残るかけがえのないものにしようと、学業や仕事などの合い間をぬって、準備をしています。そのメンバーを取りまとめるのが、委員長の蝦名みさきさんです。

平成27年度成人式の案内
日時 1月10日(日)
受付9時30分〜
式典10時〜
場所 町福祉会館

